

國學院大學學術情報リポジトリ

A Report on the FA system in Active learning in the Faculty of Economics

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮下, 雄治 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002162

経済学部アクティブラーニング科目における FA活動の取り組み

宮下 雄治

【要 旨】

本稿は、経済学部のアクティブラーニング科目におけるFA（学生ファシリテーター&アドバイザー）制度について、令和2年度におけるオンライン授業下の活動報告を行う。令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う授業形態の変更により、FAの実施形態も大幅な変更となった。前期、後期ともに「遠隔（オンライン）授業」となったため、オンラインでのFA活動について研修を重ねるなどの対応を行った。その結果、対面授業と質的に劣ることのない学修支援を実施することが出来た。

また、経済学部では、令和2年度より学部改組に伴う新カリキュラムが始動した。アクティブラーニングを推進する経済学部では、課題解決型授業（PBL）の専門科目が1年次から3年次それぞれに追加された。FAと教員との情報共有や研修を重ねたことで、各アクティブラーニング科目において、遠隔授業の円滑な推進にFAが大きな役割を果たしたことを確認することができた。とりわけ初年次教育である「基礎演習」においては、1年生はキャンパスに来ることが出来ず友人が出来にくい環境において、FAが身近な相談相手として受講生をケアし、さらにはクラスの良い人間関係の構築において大いに貢献した。

月に1度の頻度で開催した研修では、オンライン授業に求められるFAの具体的活動について、様々な状況に応じた対応策を事前に学習するとともに、オンラインならではのグループワーク、クラス作りなどの手法の共有に努めた。オンラインの特徴や良さを活用したファシリテーション業務が遂行できたことにより、教育的意義は大きかったと考える。本年度培ったオンラインにおけるファシリテーション業務とアクティブラーニングの運営に関する知見は今後も生かしていきたい。

【キーワード】

アクティブラーニング、FA制度、ファシリテーション研修、コーチング、オンライン授業、授業の標準化、新カリキュラム

1. はじめに

経済学部では、令和2年度より学部改組に伴う新カリキュラムが始動した。アクティブラーニングを推進する経済学部では、課題解決型授業（PBL）においてFA（学生ファシリテーター&アドバイザー）を各クラスに配置している。経済学部の初年次教育である「基礎演習A・B」も引き続きFAが配置されることに加え、課題解決型授業の専門科目が1年次から3年次それぞれに新設された。2年次以降の課題解決型授業については、基礎演習のFAを経験した学生がFAを担当した。上級学年のFAらは、後輩FAの指導やアドバイス業務を行い、経済学部におけるFA活動の効率的な遂行や組織化に貢献した。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う授業形態の変更により、FAの実施形態も大幅な変更となった。前期、後期ともに「遠隔（オンライン）授業」となっ

たため、オンラインでのFA活動やアクティブラーニングのあり方について研修を重ねるなどの対応を行った。その結果、対面授業と質的に劣ることのない学習支援を実施することが出来た。

令和元年度の本事業の推進において培ったファシリテーション技術を本年度も最大限活用すべく、新しく開講する課題解決型授業において環境づくりを行った。具体的には年間9回にわたる研修会やオンラインでの組織化を実施し、FAのファシリテーションやコーチングスキルの向上、各クラスの学修状況の確認、FAの悩みや問題点の共有、FA組織の活性化等を図った。

2. 令和2年度における経済学部「FA制度」の取り組みと事業の概要

(1) 学生ファシリテーター配置授業

経済学部では、「基礎演習A・B」をはじめとするグループワーク形式のアクティブラーニング科目の実施において、その教育効果を高めるためにFA制度を活用している。現在、同形式の授業を実践する科目には、FAを各クラスに1名ないし2名ずつ配置し、学生の議論の活性化を促すとともに、学修支援を行っている。

対象となる授業科目は、旧カリキュラムにおいては次の4科目である。

- ・「基礎演習A」(1年前期、23クラス)
- ・「基礎演習B」(1年後期、23クラス)
- ・「経営学特論(リーダーシップ)」(1年後期、2クラス)
- ・「経営学特論(ビジネスデザインI)」(2年前期、2クラス)である。

令和2年度の学部学科改組による新カリキュラムにおいては、課題解決型授業を拡充し、FAを配置したアクティブラーニング科目の充実化を図った。具体的に追加(新設)される科目は次の科目である。

- ・「ビジネスゲーム」(1年後期、2クラス) ※令和2年度より
- ・「政策デザイン」(2年前期、2クラス) ※令和3年度より
- ・「リーダーシップ応用」(2年前期、1クラス) ※令和3年度より
- ・「ビジネスソリューション」(3年前期、1クラス) ※令和4年度より

(2) 「基礎演習A・B」の課題とこれまでの研修

経済学部では、平成27年度からアクティブラーニング形式の授業トライアルを導入し、平成28年度から全23クラスに展開している。導入から5年が経過した現在、経済学部の初年次教育として定着が図られ、学生の主体的な学習をはじめ一定の教育成果をあげることが出来ている。しかしながら、「基礎演習A・B」の課題として、①基礎演習担当教員およびFAのスキルのバラつき、②教育ノウハウの蓄積が不十分であること、③各クラスの

運営におけるバラつきなどが指摘されてきた。ファシリテーションスキルやコーチングスキルをはじめとする指導法を基礎演習全クラスで標準化・均質化していくことは従来より課題として認識されてきた。

以上の3点に加えて、④教員間でのゴール像や獲得ステップが不明確で共有されていないことも課題として挙がっている。授業を担当する教員同士はもちろんであるが、FAとの共有を行い、学生への学修支援につなげていくことが課題とされている。

このような課題に対して、過去の本事業においては、該当科目のルーブリックの作成や教員研修を実施してきた。

令和元年度の事業では、これまで2ヶ年（平成29年度、平成30年度）に渡り、「経営学特論（ビジネスデザインⅠ）」、「経営学特論（リーダーシップ）」「基礎演習A・B」のルーブリックの作成や教員研修を依頼したand seeds社に以下の業務内容を委託し、教員を巻き込みながらルーブリックの導入および実行支援、さらにはコーチングスキル向上に向けた研修を行った。

具体的には、①ルーブリックの浸透支援→教員間でより深く浸透・共有するための研修会（ワークショップ）の開催。②アクティブラーニング型授業の学習法の改善・発展支援→ルーブリックの到達度合いを高められるように質問や傾聴といった指導法を指導。③授業の進め方に関する振り返りの実施→ルーブリックを用いた授業提供の進め方に関する研修会の開催である。

過去に作成したルーブリックに関して、担当教員間で理解を深め、更なる浸透と実践的に授業展開される状態を目指すとともに、担当教員がこれの積極的な活用による質の高い授業提供を行うべく、「コーチングスキル」の向上を目的とした研修会を実施した。また、授業展開や具体的な取り組み、さらには教員間の情報共有を通じて、策定したルーブリックのブラッシュアップを図ることも目的とした。

令和2年度の授業においては、このように過去の研修で教員間のルーブリックの共有やコーチングスキルを実践として該当科目で発揮すること、さらには担当科目のFAにそのノウハウ、知識を共有することが求められた。

3. 令和2年度における「授業開始前」の取り組み

令和2年度は前述の通り、オンライン授業という新しい環境下でのFA活動が求められた。教員もFAも新しい経験であり、両者の不安や知識・スキルの不安を補うべく、研修会に力を入れた。以下では、FAを対象として行った研修会について、そのテーマと具体的内容について報告する。

研修会を実施するにあたり、経済学部教務委員会で「令和2年度FAの業務内容」をあらためて検討し、FA、教員間の共通認識を図った。以下はその内容の一部である。

(1) オンライン授業におけるFAと教員の共通認識事項

<授業時間前>

- ・FAは早めに待機室に入室し、教員が授業を始まるまで静かな環境を維持（ミュートの確認など）
- ・FAは受講生の入室許可（教員と共同で）。受講生以外の入室がないか確認。

<授業時間時>

- ・FAの業務は、タイムキーパー、進行（必要に応じ）、コメント、グループワークを円滑にするファシリテーション、ディスカッションの指導、履修学生からの相談への対応、資料の配布、レポート等提出物の回収、Zoomミーティングに関する補助業務等

<授業時間外>

- ・教員やFA間での授業に関する打合せや研修

<FAの注意事項>

- ・特定の学生から、必要以上に電話、メール、SNS（LINEなど）などで連絡が来る時は、教員に連絡する。
- ・特定の学生に、必要以上に電話、メール、SNS（LINEなど）などで連絡を行わない。
- ・Zoomミーティングにおいて、履修学生に対してプライベートチャットを送らない。
- ・指導者として相応しい言葉づかいや話しかたで丁寧に接する。
- ・履修学生の意見や考えに対して真っ向から批判して不愉快な思いを抱かせない。
- ・履修学生からの遅刻や欠席に関する連絡には個別に対応せず、教員に直接連絡するように指示をする。
- ・履修学生からの履修の相談には応じない（入学年度によってカリキュラムが異なるため注意）。
- ・Zoomで表示される名前はフルネームにする。
- ・Zoomに参加する場所は自宅とし、フリーWi-Fiスポットなど自宅以外から参加しない。
- ・セクハラや嫌な態度を取られた時は、教員に報告する。

(2) 「授業開始前」のFAのZoomスキルアップ研修

基礎演習をはじめ、アクティブラーニング科目のオンライン化に先立ち、担当FAに対してZoomスキルアップ研修会を実施した。この研修では、FA同士で相互に学び合う文化を醸成し、円滑な授業運営をサポートする知識とスキルを磨いた。

研修会は令和2年4月15日と17日の2日に分けて実施した。辻和洋特任助教監修のもと、先輩FA（3年生）5人が講師になり、2年生のFAに以下のZoom操作に求められるスキ

ルの研修を行った。

<当日の流れ>

- ・運営サポートメンバーから研修の目的について
- ・オンラインスキルを高める意義・ポストコロナに向けて
- ・各班に分かれて研修（60分程度）
- ・まとめと今後の取り組みについて

<研修内容>

①ブレイクアウトルームの参加、②チャット、③手を挙げる、④画面共有、⑤ヴァーチャル背景の設定、⑥反応、⑦共同ホストの権限、⑧強制ミュート、⑨ブレイクアウトルームの移動、⑩ホストとして会議を開く、⑪会議の設定の仕方、⑫ブレイクアウトセッションの作成、⑬ブレイクアウトルームにコメントを送る、⑭ホストの譲渡 等

4. 令和2年度における「授業開始後」の研修会の取り組み

オンライン授業でのFA活動を効果的に遂行するために、本年度はオンライン（Zoom）を活用した研修会を授業開始後に9回実施した。研修会の開催にあたり、教員は経済学部教務委員の紺野由希子准教授がコーディネートとなり、辻和洋特任助教が研修内容の企画と運営を行った。なお、ここで記載する内容は紺野由希子准教授による報告書に記載された内容をもとにしている。

(1) 第1回研修会

日 時：5月13日（水）

テーマ：「チームビルディング」

内 容：よいチームビルディングをするために必要な事項について、研修を行った。前半では、ロビンス（2009）『組織行動のマネジメント』を参考に、チームワークを構成する5つの要素である、「お互いの信頼感」、「共通の目的」、「効果的なリーダーシップ」、「強みと弱みの把握と役割分担」、「コミュニケーション」について、体系的に整理した。後半では、グループワーク形式でチームワークを構成する5つの要素を、実際の基礎演習でのファシリテーションにどのように活かすことができるのかについて議論を行った。参加者（FA）からは、研修を通じて、受講生（1年生）に対して、チームの中で足りないところを見つけて自らがその役割を行うことで、良いチームを作り上げるように取り組むような姿勢を持てるように促したい等の研修の内容を活かしたファシリテーションのあり方について意見が出た。

(2) 第2回研修会

日 時：5月20日（水）

テーマ：「より良い授業運営をするために」

内 容：よりよい授業運営をするためにはどのような取り組みが必要かについて、研修を行った。前半では、具体的に、授業前後と授業中に分類した上で、それぞれに求められる取り組みについて整理した。授業前後では、どのような事前準備および事後対応（振り返りをもとに次回に活かす取り組み）が必要であるのか検討を行い、授業中に関しては、オンライン授業での課題について整理した上で、講じられる工夫についてこれまでの基礎演習での経験をもとに検討した。後半では、参加者（FA）にグループワーク形式で、実際にファシリテーター役と受講生役のそれぞれを経験させた。参加者（FA）からは、今後のファシリテーションを行う際には、受講生（1年生）の立場に立った指示やサポートを行いたいといった意見や、円滑な授業運営のための工夫について様々な建設的な意見が出された。

(3) 第3回研修会

日 時：6月17日（水）

テーマ：「伝え方と対話を学ぶ」

内 容：相手に物事を伝える際に重要となる「アサーティブネス」（自分が伝える態度）と具体的な物事の伝え方について研修を行った。アサーティブネスとは、「自分も相手も大切にして、自分の感情や要求を、率直に、誠実に、対等に伝えることのできる自己表現の考え方と方法」であり、前半はアサーティブネスについて体系的に整理した。後半は、ワールドカフェ形式で、ストーリーで語る際にキーとなる3つのポイントを押さえた上で、良い対話を実現するための手法について実践させた。参加者（FA）からは、「不安や悩みをテーマに話し合うグループワーク」の中で、3つのポイントを押さえて伝えると伝わりやすく、伝える態度についても考えながら取り組むことでスムーズにいくということが学べたといった意見や、研修を通じて、他者の意見を受け入れて、自分の意見を分かりやすく伝えることができるようになったというコメントが寄せられた。

(4) 第4回研修会

日 時：7月15日（水）

テーマ：「振り返りを通じて経験学習のサイクルを理解しよう」

内 容：経験学習のサイクルについて研修を行った。前半では、まず、経験学習のサイクルの定義と話すことがなぜ重要なのかについて、「バラクライン」（人に伝える）と「オートクライン」（自分が聴く）の2つの視点から整理した。後半は、ワールドカフェ形式で、対話、ディスカッション、ディベートの違いについて押さえた上で、

「グループワーク」の中で、経験学習のサイクルを実践してもらった。参加者（FA）からは、「議論は検討していることについて結論を出すことが求められるが、対話では相手の言葉の裏にある想いを受け取ることが目的であり、結論を出すことを目的としない」といった「議論とディスカッションの違い」の重要性について学ぶことができたという感想が出た。また、今後のファシリテーションにおいては、対話の中で自分の考えが整理されるので、言語化することの重要性を基礎演習の受講生に伝えたいとのコメントが出た。

（5）第5回研修会

日 時：9月8日（水）

テーマ：「ファシリテーションにおけるコアバリューを理解しよう」

内 容：ファシリテーションにおける「コアバリュー」について研修を行った。コアバリューとは「中核となる価値観」のことであり、物事の判断を下したり、優先順位を定めたりする際の「ものさし」になるものを指す。前半では、ファシリテーションにおけるコアバリューについて整理し、「①助け合い高めあう、②自分から動き出す、③ハードファン、④光彩を放つ」の4つが挙げられた。後半は、1 on 1形式で、これまでのファシリテーター&アドバイザーの経験をもとに、ファシリテーションにおけるコアバリューについて議論した。

また、本ワークは、経験学習サイクルの「実験⇒経験⇒振り返り⇒持論化」の4つの要素の中で「振り返り⇒持論化」を実践したものである。参加者（FA）からは、「ワークを通じて、自分自身がファシリテーションにおけるコアバリューを踏まえた活動がどの程度できていたのかについて認識することができた。今後は、振り返りを元に、より効果的なファシリテーションを実践していきたい。」とのコメントが出た。

なお、今回の研修会をもって、3年生のFA活動は終了となり、2年生と3年生の合同研修は終了となる。最後の機会として、3年から2年へこれまでの経験を踏まえたアドバイスを伝達し、上級生が有するノウハウと情報の共有が図れた。

（6）第6回研修会

日 時：10月21日（水）

テーマ：「FBの意義を理解し、シェアド・リーダーシップスキルへ活かそう」

内 容：FA業務を通じて「フィードバック（FB）」の意義を理解し、シェアド・リーダーシップスキルに活かす取り組みについて研修を行った。大学において導入されるフィードバックには、「①自分自身で振り返る、②自分で振り返ったものを他の人に客観的にコメントしてもらおう」といった大きな2つの意義がある。また、そのほかの意義（副次的なもの）として、「③授業内容や感じたことの共有、④自分の悩

みや相談事を共有する、⑤自分を理解してもらい、他のメンバーを理解する」といったものが挙げられる。

前半では、FA業務での経験をもとに、フィードバックの意義について整理し、チーム全体でリーダーシップを発揮するシェアド・リーダーシップとフィードバックは深く結びついていることについて理解を深めた。後半では、受講生達で作成したフィードバックに関するアンケートをもとに、新しいフィードバックの仕組みについて議論を行った。受講生からはリーダーシップ習得の仕組みや経験学習サイクルの観点から検討を行うことで、フィードバックの意義について改めて認識することができたといった意見が出た。

(7) 第7回研修会

日 時：11月18日（水）

テーマ：「伝える力について学び、リーダーシップスキルに活かす」

内 容：伝える力について学び、リーダーシップスキルに活かす取り組みについて研修を行った。相手に物事を伝える際に重要となるのは、自分の伝える態度（アサーティブネス）と具体的な伝え方（フィードバック）を意識することである。その他、「SBI+R (Situation, Behavior, Impact+Request)」を意識することも大切となる。

そこで、レクチャー後のワークでは、FAでの経験（特に、自分が相手にやって欲しい事を上手く伝えられなかったこと等）を踏まえて、SBI+Rのフレームワークを用いて相手に伝える練習を行った。受講生からは、どのような態度でどのように伝えるかによって、人の行動への反映は大きく変わってくることから、これから人と協働する上でも大事なスキルになることが分かったという意見が出た。また、伝えるときの態度や伝え方も重要だが、その前提として相手との信頼関係も大事な要素となることから、信頼関係を育む第一歩として相手に対して興味を持ち相手の話をしっかり聴く姿勢を持ちたいという意見が出た。

(8) 第8回研修会

日 時：12月16日（水）

テーマ：「振り返りを通じて、効果的なファシリテーションのあり方について考える」

内 容：基礎演習内でのファシリテーションやプレゼンテーション大会の運営での経験を振り返り、より効果的なファシリテーションのあり方について研修を行った。振り返り際には、「経験学習のサイクル」（経験し、振り返えることを通じて持論化し、学びを持ちながら新たな実験をし、経験を積むこと）が重要であることについて理解を深めた。また、オートクライン（自分が聴く）とパラクライン（人に伝える）という2つの視点から、自分の言葉でポイントをまとめて言語化することの意義について整理した。ワークでは、本研修時の初めに立てた目標が達成できているのか

振り返り、メンバー内でフィードバックを行った。最後に、改めてファシリテーターとしての使命や理念の共有を行った。受講生からは、ワークを通じて、言語化し人に伝えることで、自分の考えを整理されることが実感でき、経験学習のサイクルである「振り返り⇒持論化」の流れをより理解することができたという意見が出た。

(9) 第9回研修会

日 時：令和3年1月20日（水）

テーマ：「モチベーションを高める工夫」

内 容：モチベーションを高める要素の整理や関連する概念について研修を行った。モチベーションとは「目的に向かって行動するためのエネルギー」となるものであり、モチベーションに関連する概念として「内発的/外発的動機付け」や「目標設定理論」について整理した。ワークでは、受講生自らの経験に紐付けながら、モチベーションを高める要素を洗い出して、研修で扱った概念をもとにモチベーションを高める工夫について考察を行った。受講生からは、モチベーションの有無で同じ物事に取り組むにしても成果が大きく異なってくることから、モチベーションをうまく活用して自分の目標に向かって取り組みたいという意見が出た。

また、2年生が基礎演習クラス担当FAの活動としては終了となることから、1年間のFA活動の反省会を行った。

令和2年度は9回のFA研修会を通して、オンライン授業におけるFA活動の知識とスキルの向上を図った。「基礎演習A・B」ならびにアクティブラーニング科目を担当するFA間で質の高い授業提供を行うためのファシリテーションについて理解を深め、その実践的なコーチング法の向上を図ることができた。

また、研修会を通して、基礎演習やアクティブラーニング科目におけるコーチング法を振り返ることで、自らのコーチング法に関する強みや課題を明らかにすることができたことは今後の授業での改善が大いに期待できる。各FAの改善ノウハウが共有されたことで、基礎演習全体の授業運営に反映されることを期待したい。

5. おわりに

本年度も基礎演習全23クラス、ならびに新設したアクティブラーニング科目（2科目）、さらに既存の2年生アクティブラーニング科目において、FAが授業の円滑かつ活発な進行に非常に大きな役割を果たしていることを確認した。経済学部におけるFAの導入前に比べると、当該科目を受講している学生が自ら進んで議論し、クラスは活性化している。

本年度はオンラインでのFA活動であったが、研修会を充実化させたことも奏功し、FAがピア・サポーターとして学生をケアし、クラスに溶け込めない学生をほぼゼロにするな

ど重要な役割を担った。実際に、担当FAは学生生活や授業に関する不安や悩みなどを受講生に気兼ねなく相談できるサポートを行っており、オンラインの学習で大学への帰属意識を持つことができない学生、オンライン授業に慣れない学生、さらにはクラスに溶け込めない学生を減らすことにも効果があったことが複数のクラスから報告されている。上級生のFAは、受講している下級生からは身近な相談相手として大きな存在であることがわかり、受講生の授業アンケートの結果をみるとFAの存在や影響力をたずねた項目は総じて高い評価を得ている。

基礎演習ならびに課題解決型授業において、FAは研修で培ったファシリテーションスキルを実践として発揮するなど研修の効果も随所にみられた。

このように、基礎演習やアクティブラーニング科目の全クラスにFAが配置されるようになった成果は非常に大きい。オンライン授業により、FAの貢献が不透明な部分があったが、オンラインの特徴や良さを活用したサポート活動が遂行できたことにより、教育的意義は大きかったと考える。本年度培ったオンラインのファシリテーションの能力は今後も生かしていきたい。

経済学部で学部改組に伴う新しいカリキュラムでは、学生の主体的な学修を促すアクティブラーニング科目が充実するとともに、段階的・系統的なカリキュラム構成を実現した。これまで以上に、初年次教育である「基礎演習A・B」において、基本的な学習方法から、専門教育を学ぶ上での基礎的な内容の教育を充実させていく必要がある。

これの実現では、開講クラス（現在23クラス）の教育の標準化と均質化を図ることが必須であり、担当教員の認識、目指す成果を合わせて一枚岩として進めていくことが求められる。これに加え、各教員のアクティブラーニングの教授法、とりわけコーチング技術の向上が要請され、これの向上・強化に向けた取り組みを継続的に検討している。

教員に求められるコーチングは、通常の講義科目におけるティーチングとは異なるスキルが求められ、とりわけアクティブラーニング科目における重要性の高い教育スキルである。ティーチングが一定の理論に基づいて体系化された知識を伝達して目標達成へと導く指導方法であるのに対し、コーチングは相手のやる気や持てる力を引き出しながら、具体的な目標達成に向けてサポートしていく指導方法であり、異なる指導スキルが求められている。コーチングの実践においては、相手（受講生）の考えや気持ちをしっかり受け止め、個々人の状況に応じた対応が要請される。

教員のコーチングスキル向上については令和3年度の事業において具体的な取り組みを実施している。具体的には外部事業者から助言を受け、自己改善を加えていく試みである。これによって、國學院大學全体における初年次教育やアクティブラーニングについてのノウハウを蓄積し、全学的に波及させることが可能であると考えている。これについては、別の機会で報告したい。